



ばうむ合同会社 吉野事業所オープン

以前自社の季刊誌内で紹介した一次産品に付加価値を付け、安全で安心な商品の提供により町の雇用を生み出すことを目的とする自社の「焼酎事業」。現在この事業では常勤2名を新たにに加え、計4名の従業員で運営を行う

ており、12月1日、旧吉野中体育館にて「ばうむ合同会社吉野蒸留所」がよいよオープンすることとなった。
この蒸留所では地元本山町で生産するブランド米「土佐天空の郷」を使用した米焼酎の製造を行う。その行程は原料処理室から蒸した米を麹室に送り種麹を加え、もろみを作り込む。そのもろみは仕込み室へ場所を変え、アルコール発酵の2次もろみとなる。この時最も重要となるのは温度管理で、品質を保ちながら、天空の郷の持ち味である米の甘みと香りを最大限に抽出できるように仕込む。
その後蒸留器にかけ、原酒をとり、2ヶ月間じっくりと熟成させて出荷となる。
できあがった焼酎は天

空の郷本来の甘みを連想させるあの香りが特徴的で、じっくりと寝かせるためアルコールのとげとげしさがなくなるやかである。
地元の郷土料理や、特産品なども相性が良く、その組み合わせも本誌で紹介していく予定である。
年間製造量として
は約11kg
の製造を
予定して
おり、で
きあがっ



季刊誌 ばうむ baum-llc

秋号の紙面

ばうむ合同会社 焼酎事業 始動
れいほく地域人ネット秋山 裕二さん
嶺北 名木奇木特集
この秋見たい土佐町ランドアート

発行所
地域の総合商社
ばうむ合同会社
TEL 0887・76・3355
FAX 0887・76・3365
〒781-3609
高知県長岡郡
本山町助藤1372
(吉野川リビング協同組合内)

ばうむ合同会社
吉野営業所
TEL 0887・72・9900
FAX 0887・72・9911
〒781-3618
高知県長岡郡
本山町吉野173
http://www.baum-llc.com

た商品は関東圏を中心に主に飲食店へと出荷される。
地元の酒販店での販売も決まっており、町内の各イベントでも販売する予定である。
同施設内には「コミュニティスペース」も「り・かわ夢広場」も同日オープンも予定しており、嶺北地域へ観光に来る方や、地元の子ども達向けに木工教室も随時開催していく。また施設内には「ピザ窯」もあり、体験で使用する他予約制での貸し出しも可能である。

事業方針

地域の中にあるまだ十分活用されていない資源を活用することで、地域の中に雇用と所得を生み出し、持続可能な地域再生の実現を目指します。
また、地域に残る豊かな自然環境を活用し、地域内外の人たちに安らぎを提供します。

行動の原点

変化に期待するのではなく、己の力で未来を拓く

「ば」 万物に感謝し、自然と人との調和によって恵みが生まれる

「う」 美しい山間の町からみんなの笑顔がこぼれるように

「む」 無限の可能性に挑戦する



持ち運びに便利!

いつでも、どこでも。自分だけのマイスペース。 フォールディングテーブル



ティータイムテーブル、パソコンデスクと、ベランダでのガーデニング等、屋内外のあらゆる用途でご使用いただけます。高知県産材を使用していますので軽くて丈夫。折りたたみ式なので女性でもらくらく運べ、使わない時でも収納にこまりません。



サイズ 幅820mm 奥行600mm 高さ705mm
天板の厚さ15mm 折りたたみ時の厚さ110mm
重量 約6kg

¥9,800 (税込)

「いいネ!」と思った方はコチラ

ばうむ合同会社
〒781-3618
高知県長岡郡本山町吉野173
tel.0887-72-9900 fax.0887-72-9911
Web <http://www.baum-llc.com>





(記事編集 ばうむ合同会社 澤田)

地域人ネット

「土佐あかうし生産者」

秋山 裕二さん

あかうし生産者として

「土佐あかうし」は和牛4種のうち、県内でしか改良されていない褐毛和種で、ほどよい脂身と赤身自体に甘みがある味わいが特徴。しかしその数は年々減少傾向にあり、年間出荷量が約700頭と和牛生産量の0.2%しかない希少種である。

この牛を本山町で育てる秋山裕二さんは本山町では最年少の土佐あかうし生産者である。高校を卒業後大阪で就職し、結婚後本山町へ。奥さんの実家で牛の世話を手伝っていたことがきっかけで、生



特に気をつけているのが牛をよく『見る』ということ。小さい変化も見逃さず、体調が変わる前に対処することが大事なポイントだと言っ。

秋山さんは現在本山町古田で約60頭の牛を育てており、28ヶ月の牛を出荷している。さらにはここでは繁殖から肥育を一貫して行っている。

今後は秋山さんは「この希少価値の高い牛と嶺北の魅力を知ってもらいたい。生産者だからこそできることを積極的にやりたい」と力強い抱負を語る。

ソムリエの美食コラム

「秋」に合う酒

秋の味覚の代表格「栗」。これを豚肉と合わせ煮る「豚と栗の角煮」。角煮と栗の相性は実は大変良く、豚肉の肉汁が栗にうまくしみ、通常とは違いコクがある味に仕上がる。これに合わせるには四万十特産栗焼酎「ダバダ火振」。同じく栗をつかった甘みと香りが人気の焼酎。焼酎は断然湯割りがオススメ。上品な栗の香りと柔らかいアルコール感にタレの絡んだ豚肉の絶妙な旨みが口に広がる。また栗の甘みとダバダ火振の風味とが相乗し、旨みが増す。まさに今の季節にぴったりの取り合わせ。



この秋見たい文化・芸術

土佐町ランドアート

ランドアートとは、ほとんど道具などを用いなく自然にある枝や石、葉や土、光や影、水といった素材を使い、平原や森の中などに構築された作品を言います。土佐町でも平成9年から世界のアーティストを招き、このランドアートに取り組み、土佐町さうら湖周辺には様々な形のアートが点在しています。作品は湖周辺の道路沿いにもあり、道行く通行人や観光客などを楽しませる土佐町の観光の目玉のひとつとも言えます。

また、作品は全てさめうら湖道路沿いのみならず、そこから森の中に入った場所にも設置されているのでそれを探して森へ入るのもまた魅力のひとつ。



田舎いんぶ 定福寺

大豊インターチェンジを車で30分の所にある定福寺。真言宗智山派に属し、奈良時代に名僧行基によって創建され、本尊阿彌陀如来座像をはじめ、四国最古の聖徳太子像や、日本では唯一とされる『6体の笑い地蔵』も安置される。

荘厳で静寂に包まれ、珍しい山岳植物に囲まれた寺域には民族資料館があり、貴重な農耕用具や、山林用具などが多数収蔵されている。ここは地域に根差した寺である以外に、先人達の暮らしが静かに息づく「学び場」となっている。

嶺北名木奇木 特集

嶺北の名木や奇木、巨木を紹介するこのコーナー。山が多いこの嶺北ならではの隠れた大木も紹介！ひとりで眺めるもよし。みんなでわいわい見るもよし！これさえ知っておけば観光場所にも、困る事はありません。

- 大座礼山のブナ
- 南川桂ヶ迫の桂
- 河内神社の夫婦杉
- 平石の乳イチョウ
- 中島の金木屋
- 白髪山の白骨林
- 本山町
- 根下がり桜
- 早明浦ダム
- 吉野川
- 十二所神社の杉
- オリドの杉
- 桃原の牡丹杉
- 土讃線
- 日本一の大杉

焼畑農業の生き証人 土佐町南川桂ヶ迫物語

中澤 良太郎 作

皆さん今日は、お初にお目にかかります。本日はこんな山の中までお越しいただきどうもありがとうございます。申し遅れましたが私は土佐町南川桂ヶ迫、俗称桂ヶ迫の「桂」でございます。両親はもうこの世にいないので私の年令は定かではありませんが、西暦一五三三年ポルトガル人が種子島に漂着し鉄砲を伝えた話は私が青年時代でしたのでそれから逆算すると西暦一三九七年足利義満が京都に金閣寺を創建した頃双葉を出し推定六百年！七百年位にはなるかと思えます。西暦一五六〇年桶狭間の戦い、一五八二年本能寺の変、一五九八年秀吉の他界、一六〇〇年関ヶ原の合戦、一六二五年大阪陣城豊臣家滅亡等々大変な時代を生きて参りました。このすぐ下で勇姿を誇っていた大杉三休は寛永元年一六二四年二条城、大坂城普請用として献上され、瀬戸川から吉野川、そして阿波徳島から大阪へと嫁立ちしましたが、嫁立ちの直前に私はこの大杉の仲立ちで妻をめぐりました。

名は「かえ」と申します。ご覧のとおり抱きかかえて仲睦まじく現在に至っております。となりの「お藤」を養女に迎え、三人仲良く平和な「桂ヶ迫」に暮らしております。焼畑農業の時代に焼かれた木もどうやら癒えて元気にになりました。道路ができて自動車が登場してくるなんて現代人はすいひひ弱くなりました。瀬戸川流域も便利になりました。携帯電話も聞かえるようになり、瀬戸川流域も便利になりました。「お藤」の花の時期にぜひお誘い合わせの上に見に来てやってください。本日は遠路どうもお疲れ様でございました。お足もとにお気をつけてお帰り下さい。

瀬戸川 桂
養女 お藤 妻 楓

ばうむ 10月から12月 イベント出店情報

親子で楽しめる

10月	11月	12月
20日 土佐の豊穡祭 同時開催 【お山の手づくり市】	2日・3日 【サニフェスタ2013】 3日・4日 【第9回 高知もくもくランド】 17日 【本山町産業文化祭】 17日 お山の手づくり市 24日 日曜市	20日 【お山の手づくり市】 27日 【日曜市】